

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：課長 前佛 和秀

事業の概要

事業名	一般国道8号（富山外郭環状道路） なかじまほんごう 中島本郷立体	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	富山県富山市中島～富山県射水市白石			延長	7.4 km
事業概要	<p>富山外郭環状道路は富山都市圏の環状道路ネットワークを構築する地域高規格道路である。</p> <p>このうち、一般国道8号中島本郷立体は、富山県富山市中島から富山県射水市白石までの延長7.4 kmを4車線にて本線整備を行うものである。（東側に接する豊田新屋立体事業については、平成21年度に事業化しており、事業を推進中のところ）</p>				
事業の目的、必要性	<p>当該事業の整備により、主要渋滞箇所が解消し、円滑な交通確保及び交通事故削減を図るとともに、中心市街地からの通過交通排除により、公共交通を軸としたまちづくりを支援する。また、国際拠点港湾伏木富山港へのアクセス性向上により、産業活性化を支援するものである。</p>				
全体事業費	約450億円	計画交通量	約43,900～68,600台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見

【富山県知事】

- 「一般国道8号（富山外郭環状道路）中島本郷立体」の予算化について、同意いたします。
- 今回の交差点立体化により、当該区間の渋滞緩和や交通事故削減に大きな効果が期待されるだけでなく、国際拠点港湾伏木富山港へのアクセス性が向上し、河川氾濫時においても緊急輸送道路の通行が確保されるなど、地方創生や国土強靱化にも大きく寄与するものと期待しております。

学識経験者等の第三者委員会の意見

- 新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている
手続きの完了：都市計画決定手続き完了（R3.2）

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.6	総費用 348億円 事業費：319億円 維持管理費：29億円	総便益 565億円 走行時間短縮便益：349億円 走行経費減少便益：172億円 交通事故減少便益：44億円	基準年 令和2年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1 (交通量 -10%)	B/C=2.1 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.5 (事業費 +10%)	B/C=1.8 (事業費 -10%)	
	事業期間変動	B/C=1.5 (事業期間 +20%)	B/C=1.8 (事業期間 -20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	<ul style="list-style-type: none"> 交差点立体化により渋滞が緩和され、円滑な交通を確保 【渋滞損失時間】 国道8号（中島～本郡）の渋滞損失時間： [現況]約35万人時間/年→[整備有]約12万人時間/年（約7割削減） 	
		事故対策	◎	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞緩和により国道8号の安全性が向上し、死傷事故が減少 【死傷事故件数】 国道8号（中島～本郡）の死傷事故件数： [現況]93件/年→[整備有]13件/年（約9割削減） 	
	社会全体への影響	歩行空間	○	中心市街地からの通過交通排除により、歩行者や自転車の安全性が向上	
		住民生活	○	中心市街地からの通過交通排除により、路線バスの定時性が向上し、また、道路空間の再配分や利活用が可能となり、公共交通を軸としたまちづくりを支援	
		地域経済	◎	<ul style="list-style-type: none"> 国際拠点港湾伏木富山港へのアクセス性向上により、産業活性化を支援 【伏木富山港～富山県東部企業の所要時間】 [現況]約72分→[整備後]約62分（約10分短縮） 	
		災害	○	交差点立体化により、神通川氾濫時においても、第1次緊急通行確保路線である国道8号の通行を確保	
	環境	—	注目すべき影響は無い		
	地域社会	—	注目すべき影響は無い		
事業実施環境	○	都市計画決定（R3.2）			

採択の理由

費用便益比が1.6と便益が費用を上回っているとともに、都市計画決定手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。

また、主要渋滞箇所解消による円滑な交通の確保、死傷事故の減少による安全性向上、さらには物流円滑化による産業活性化の支援など、事業の必要性・効果は高いと判断できる。

以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。